

令和元年度第1回稲沢市総合教育会議 会議録

1. 日 時 令和元年7月17日（水）午後1時30分～2時50分

2. 場 所 稲沢市立中央図書館 研修室

3. 出席者

市 長 加藤 錠司郎

教 育 長 恒川 武久

教 育 委 員 藤田 美知子 野村 春子

内藤 晶仁 吉川 繁樹

小川 仁美

市長公室

情報推進課長 村田 司

教育委員会

教 育 部 長 遠藤 秀樹 部次長兼生涯学習課長 岩田 勝宏

庶 務 課 長 榊山 隆夫 庶務課統括主幹 森 義孝

学校教育課長兼指導主事 吉田 雅仁 学校教育課統括主幹兼指導主事 吉田 剛往

スポーツ課主幹 内藤 邦将 図 書 館 長 前橋 桂子

美 術 館 長 山田 美佐子

庶 務 課 主 幹 尾崎 登紀子 書記 庶務課 山田 菜摘

4. 傍聴人の数 2人

5. 協議・調整事項

(1) ICT化について

①国の動向と稲沢市の取り組みについて

②学校における取り組みと現状について

③インターネット、スマホがもたらすトラブルについて

6. その他

－ 開 会 －

●庶務課長

定刻になりましたので、令和元年度第1回稲沢市総合教育会議を開会します。それでは、初めに加藤市長から御挨拶申し上げます。

(市長あいさつ)

●庶務課長

ありがとうございました。本会議は稲沢市総合教育会議設置要綱第5条第1項の規定により市長が議長を務めることとなっておりますので、会議の取り回しについては、市長にお願いいたします。

◎市長

規定でありますので、議長を務めさせていただきます。進行に御協力をお願いいたします。それでは、協議事項に入ります。「ICT化について」、担当課から説明をさせ、委員の皆様から御意見をいただきたいと思えます。

初めに、情報推進課から「国の動向と稲沢市の取り組みについて」お願いします。

●情報推進課長

(別添の資料により説明)

◎市長

ただいま、情報推進課から説明がありました。中々難しい言葉などたくさんありまして、その概念について皆さん御理解いただけたかと思えますが、この話を聞いてよく分かるという方はどれくらいいますか。

(挙手)

◎市長

ありがとうございます。それくらい難しい話題だと思います。用語の解説が下に載っております。ICTとは何か、SOCIETY5.0とは何かなど実際どんな意味かというのは分かりにくいと思えます。先ほどクラウド上の学習教材をとという話がありました。中々難しい話題だと思いますが、徐々に分かっていただけるように次の説明をお願いします。

●学校教育課長

(別添の資料により説明)

◎市長

ありがとうございます。昨日打ち合わせをしていて、本当はその教室の様子を動画を用意して皆さんに見ていただければよかったですのですが、十分に準備する時間がありませんでしたので、学校教育課長が丁寧に説明してくれました。

今の授業の様子、私たちの黒板・チョーク・教科書・ノートの時代からだい

ぶ変化してきたということが理解していただけたと思います。こういった I C T 社会がもたらすトラブルについてまた学校教育課から説明をお願いします。

●学校教育課長

(別添の資料により説明)

◎市長

ただいま子ども達を取りまくスマホの使用状況や、スマホを巡るトラブルの例について話がありました。小学校も中学校も生徒のおよそ 85%強がスマホは使ったことがあるということで、自分のスマホを持っている子は、小学校で 26%、中学校で 58%という話でございました。このような状況を皆さんも折々いろんなところで、見ていらっしゃると思いますけれども、今全体的に国の動向と稲沢市の取組では、稲沢市としては今年度 I C T 化推進計画というものを策定する予定でございます。先ほどの学校教育課の資料にて今後の I C T 整備についてと書いてありますが、無線 L A N の環境をどうするか、あるいは電子黒板をどのように導入していくか、またタブレットをどうするかという課題もございます。今年度こういった計画をどのように進めていくか策定する予定でございますけれども、今いろいろな話を聞かれてどのような感想をもたれたか委員から順番にお願いいたします。

○委員

教育の分野についての I C T についてお話させていただきます。

実は私の身内に教員をやっている者がおりまして、少しヒアリングをしてきました。

先日榊山庶務課長からいただいた資料を基にお話をさせていただいて、やはりデメリットという点についてはあまり聞くことがなかったです。メリットは、資料に記載されていることをほとんど言っていました。とても授業が進めやすいと、その学校はタブレットが 50 台、先生用のタブレットが 1 台、パソコンが 1 台で活用してみえました。先ほどの絵の具の話ではないですが、体育の授業を 20 代の教員が行うのと 50 代の教員が行うのでは、体力的な限界がある、そうすると 20 代の先生がサンプルの画像を撮って、子ども達に配信して、それを基にスローモーション動画ですとか、早送りですとか色んな注意点を見ながら、体育の授業ができると聞きました。ですので、大変良いことであると思いますけれども、非常に費用がかかるということもありまして、今後どのような費用対効果を考えながら進めていくのかと思いますけれども、とても良い授業ができると思います。その時に言っていたのが、やはり台数に制限がありますので、その台数を先生方で事前予約制により上手く活用しているようです。それとも

う1点は、先生方に対する個別講習もN T Tさんが来て、4校をまとめてやられたことは、あるそうです。あとは個別に聞きながら、先生方本人のスキルをアップして、授業に生かしているそうです。そういったことをお聞きして、私もぜひ先生方にとっても子ども達にとっても、とても魅力ある授業に繋がっていくならば、なるべく早くできると良いなと思いましたし、絵の具の話もそうですけど、皆が同じように同じレベルで、授業に参加できる、また情報の交換ができる、そして先生も後で見直すことができるという点では、とても良いことではないかなと思います。

◎市長

ありがとうございます。今タブレット50台、先生方には1台と言われましたが、稲沢市はタブレットの配置状況はどうですか。

●学校教育課長

稲沢市では、現在タブレットの配置はございません。

◎市長

先生も持ってみえないですか。

●学校教育課長

持っておりません。

◎市長

稲沢市は、タブレット教育がまだ進んでいないということです。そういったことも課題の1つであるということで、続いて委員お願いします。

○委員

私も詳しいことは分かりませんが、病院でも電子カルテになりまして、色々と話を聞きますと、要するにデータが全部共有できるから紹介状をもらわなくても、ボタン1つでネットが繋がっている間は全て記録などが見れると言っていました。こんな便利なことはないから、1つ間違えれば漏れることがあるけれども、ボタンを押せば全ての資料が入っていて非常に理解しやすい。その反面個人との会話がなくなって、画面を見れば全てが分かるということで、会話がなくなるなということは聞いております。

学校の方でもですね、こういうことが入ってくれば当然教育水準が画一化されて非常に有効な効果が出てくるのではないかと感じました。反面、字を書くということが必要なのかどうかと私の頭の中に残っています。20年前の話になりますが、私が講師で学生の方に試験を行ったときに書くという答案はないんですね。知識があるかないかの○×方式で、もうその頃から書けないという状況が出てきているのですが、字を書くということがこれから必要なのかどうか

という疑問はあります。

◎市長

ありがとうございます。医学の世界では、私もいつも感じているのですがデジタル化は必要ですが、ただ先生がディスプレイばかり見て、患者の方を見ないという話も実は苦情として聞いています。そういうことでありますので、先日私も心臓のCTを取りまして、結果はよかったです。冠動脈の状態が画面を見れば分かりますので、とても分かりやすく説得力はありましたが、患者の顔色を見たり、触診や打診を行わない先生が増えてきているという問題も実はあるという風に聞いております。

また先ほど言われたように、書くということについて、ローマ字入力で入力して変換も自動でされるため、書く必要がなくなってしまう。昔は読み・書き・そろばんといったものですが、今は全てコンピューターがやってしまうということになりかねないという状況であります。そういうことに対する危惧の声があったわけでありまして、よくいわれることは、分かります。また先生方の御意見もお聞きしたいと思います。それでは委員どうでしょうか。

○委員

昨日、市町村教育委員研究協議会に参加させていただいて、そちらの方も少し御紹介させていただけたらと思います。昨日、文科省の方の講義を受けてきました。国の動向として大枠は、初等中等教育施策の動向についての講義でした。その中にICTについての動向もございましたので、お話しさせていただきました。

新学習指導要領の実施を見据えて、5か年計画というものが策定されております。教育のICT化に向けた環境整備5か年計画というものを作っております。それに伴って各自治体へのアンケートが実施され、今現在2年の間でどれだけICT化が県内で進んでいるかということを経別に比較したところ、地域格差がとても大きいということが分かってきたそうです。ICT化があまり進んでいないところの理由として、プログラミング教育の担当者の有無が結果に大きく関わってきているということがございました。今後このような地域格差がないように、全国各地でプログラミング教育セミナーを実施していくことを検討しているということのお話も聞きました。先ほど御説明を受けて、稲沢市の方でもこれから推進委員会ができるということで、携わっていくということにおいて重要な役割を担っているのだと改めて実感しております。

ICTについて私も思っていることですが、先ほど野村先生のお話のように、ICTが進歩していくということに伴って、やはり書くということが少なくな

ってしまうということで、ペーパーレスになってしまうということは、私としては、日本人として必要な書道もそんなですけれども、そういったことも含めてなくなってしまうとか少なくなってしまうことに危惧を感じて、話を聞いておりました。利便性だけに着目されるのではなく、負の部分もあるということを見て、今後のカリキュラムを策定していただきたいと思います。

◎市長

ありがとうございます。おっしゃるとおりだと思いますけれども、書道など国語に関する教育に時間を割くと、国際的比較で置いていかれるという部分もあると思います。そうすると国際的に活躍していかねばいけない時代に自分の国のことにこだわっていていいかという話もあるかもしれません。実際悩ましいところだと私も思います。国語の教育、書道など書くということは、日本人にとって大事なことだと思います。今の件について、後ほど学校教育課の考え方を聞いてみたいと思います。続いて委員どうでしょうか。

○委員

今皆さんのお話を聞いて私もそうだと思うのですが、ICT化していくということについて、必要なことだと思います。ただやはりその推進していく方法や国の施策に対して稲沢市の施策をどのように進めていくのか、それに伴い費用の問題です。国からどのくらい補助がもらえるのか気になりますし、国からは色んな施策実施の通知が来るとは思います。今新学習指導要領が出て、ただでさえ先生方の負担が増えてきている、授業日数が少ないということもある中で、切り替えの時期はとても大変ですので、先生方の負担はどうなのかということ、その負担を減らすためには支援員の増員、そうすると費用がかさむということもありますので、とてもマイナスのことばかりいって申し訳ないですが、実際こういった先ほど市長さんが言われたように国際化の中でやっていかねばと思います。そういったことは、これからしっかり準備をして、やっていただければいいのではないかと思います。

◎市長

義務教育施設ですので、本来国の制度としては、小学校の施設改善交付金というのは3分の1もらえることになっているのですが、実際にはもらえないんです。

エアコンでもですね、全国一斉にやっていますけれども、これも現実には補助対象額がですね、半分以下しかない、その3分の1しか出ないということですので、6分の1以下の金額しか国からはもらえないということが現実の姿であります。

その中で私どもの市長会で話しますと、エアコンについては去年の猛暑で一斉に片が付いたのですが、その前でエアコンを進めようか、ICTを進めようか、トイレの洋式化を進めようかなど、どの順で進めるべきかという話をよく聞きました。エアコンがこれで片が付きましたので、その後どうするかという問題があると思います。市町村としてもどうするかという問題があると考えておりますが、国は中々補助は出していただけないというのが現実です。

続いて委員をお願いします

○委員

まずICT教育というものが盛んに言われておりますが、私の民間の友人がおりまして、その人は必ずITと述べるのですが、ICTとITの違いが何なのかというところ、学校現場ではICTという言葉、ICTのCはコミュニケーションという意味で資料にも説明があるとおりコンピューター技術を活用する方法、また活用して皆で考え、話し合ったり考えたりする、そういうことが大切であるという大きな特徴ではないかなということをお自身思っております。ですので、これからもコミュニケーションを大事にしてほしいなということが一番です。

最近すごく違和感を覚えることがあります、病院に行くと診断をしていただいているのに、対面ではないですよ、聞かれているのに先生はパソコンに向かって話しかけている。私のこと本当に心配してみえるのかなと常々感じるがあります。要はコンピューターが導入されて処方の方が変わってきているということを感じたことがあります。それから学校現場でのICT教育、稲沢市では先ほど課長さんから説明がありましたように、書画カメラ・プロジェクターなど、これらはほとんど一斉学習の場で行われている効果的な方法で、今現在このようなことはどこの学校でも導入されているから活用ができる。いつでも・どこでも・誰でも活用できる効果的な方法というものを研究会などの場で話し合っ、有効なものを共有するというのが、ものすごく大事かなと思います。私自身見た中で効果的だったものは、水泳指導です。一人一人の泳ぎ方を自分で見る事が出来ません。それをビデオで見ると、自分のフォームが確認できるという効果もありますし、家庭科の教師はボタン付けの時に拡大鏡の下で針を通すということも非常に効果的であったり、こういうように有効活用できるものを32校に設置していただきたいと思います。グループ学習などで有効に使えるものとしては、タブレットというものは、委員からお話があったように、有効かなと思います。特に社会科の調べ学習などは調べる時間の3分の1ほどの短縮に繋がると思います。そして生み出した3分の2

の時間をグループで話し合ったり、思考を深めたり、深い学びに繋げていただける学習をしていけたらと思います。あと最後にやはり I C T で使うパソコン等はツールであって、主体は子ども達であり、先生方である、そのの所を間違っていると大変な問題になっていくと思いますので、きちんとやっていただけたらと思います。

◎市長

いろいろな意見が教育委員の皆様方から出ました。恒川教育長はお聞きになられて、どのような感想を持たれましたか。

○教育長

少しお話しさせていただきますが、先ほども委員からもありましたように、国は I C T 化に向けた 5 年計画を策定していて、先日の都市教育長会議でもタブレット型のパソコン導入についてあるいは I C T 支援員さんの配置の計画はということ協議議題として話し合いをしました。各市もモデル的にやっていて、やっぱり遅れたくないということもありますし、また支援員がいないと現場の先生方がお困りだろうということで支援員をつけていくべきだろうという話も出ました。大変お金のかかることですが、来年度から始まる新学習指導要領で主体的・対話的・深い学びという点でタブレットを活用し、場所が異なるところでも情報を共有したり、グループでも話し合いを深めたりすることを考えた時に、これはこれからの時代、必須と考え段階的にしていかなければいけないことではないかなと捉えております。どちらにしてもそれぞれの市町村悩んでおりますので、少し進んでいる所は今後どのように進めていくのか、まだまだのところは、予算的な措置をどうするのか悩み苦しんでいる場面もありますので、また委員の皆様方の声を聞きながら予算要望等していきたいと思っております。

◎市長

稲沢市の I C T 化推進計画は、今年度の予定です。計画については、外部の委員さんや講師を呼ぶものもありますけれども、実は稲沢市は内部それぞれの部・課からですね、適当な人材を出していただいて、委員会を作って策定していこうということになっております。そこで学校教育課としては、稲沢市にどのような要望を出そうと思っていらっしゃいますか。

●学校教育課長

稲沢の子ども達が将来社会に出て、そこで整備されている便利な I C T 環境を有効に使えることを目指す上では、義務教育のうちから操作の技能を身につけたり、取り扱うときに大切にしなければいけないようなルールなど、将来に

向けて全ての子ども達に身につけさせたり、力をつけさせたりしたいと思います。そのために文科省が提示しているものとして、主体的で対話的な深い学びの実現のためにも、ICTの環境を整えて、一斉学習・個別学習・共同学習それぞれの場面で有効活用できるタブレットを各教室に設置し、無線LANの環境で活用できる、そういった環境を目指すのが大切であると考えます。同時に共同学習等で必要になってくる大型電子黒板なども合わせて整備していただけたらと思います。

◎市長

予算要求されても、全てに予算がつくかはまた別の問題だと思います。稲沢市として読み・書き・そろばんなど昔ながらの教育の良いところも皆さん言われますし、私たちもそういう教育で育ってきましたので、ある意味ノスタルジーかもしれません。ノスタルジーじゃないのかあるのか、そういう議論は中々難しいことでもありますけれども、今のようなお話を聞かれてどなたか御意見いただければと思います。

○委員

漠然的にしか分からないのですが、ICT教育というのは全教科に当てはまるものなのですか。例えばその教科によってデジタル化の教科書を使って、行うということなのか、こういったものについては、今までどおり両方併用してやっていくものなのか今後どのようにされていくのか教えて下さい。

◎市長

全教科に対応可能なのですよね。

●学校教育課統括主幹兼指導主事

以前はごく限られた教科でしたが、今現在小学校におきましては、国語・算数・理科・社会・生活・音楽・家庭科において、デジタル教科書を導入しております。要するにほんの一部の教科を除いてデジタル教科書は全て入れていただいております。中学校におきましても、国語・社会・数学・理科・英語・音楽・保健体育・技術家庭これだけに入っておりますので、ほとんどの教科に入っているということです。ただこれらを毎時間使っているかというところというわけではなくて、デジタル教科書をより有効に使える場面で効果的に使って、使わない授業も当然存在するということでもあります。先ほどのタブレット・無線LAN・電子黒板が導入されたとしても、全ての授業でそれを毎時間使い続けるということは想定しておらず、当然そうでない授業があってもいいと考えるべきと考えております。

○委員

ありがとうございます。それを聞いて安心しました。全部の授業がタブレットなどの機械相手の対話のないものになるのかと気になっていたのですが、そうじゃない人と人との生の声でいろんな授業をしたり、考え方を話し合ったりとか先ほどのように読み書きしたりということは当然これからも必要なことだと思うので、今のお話を聞いて安心しましたので、良いように進めていただければと思います。

◎市長

今の話の中で小学校の体育の話がなかったので、学校教育課からの資料よりも委員が言われたような体育の例ですね、例えば極端なことをいうと、若い先生が模範演技をして、逆上がりや水泳の泳ぎ方のサンプルを作り、使用できれば非常に分かりやすく、ためになる授業ができるのではないかと思います。小学校の体育では、使ってみえないですか。

●学校教育課統括主幹兼指導主事

デジタル教科書自体は小学校の体育では入っていないのですが、学校訪問等で体育の授業を見ますと、従前の体育の授業ですと板書等もなく、準備運動から始まって、運動をして、整理運動して終わりという流れでしたが、今はホワイトボードで本時の目当てですとか、授業の流れを丁寧に板書しますし、またデジタル教科書がなくてもビデオで動画が撮れますので、班に1つ子ども達にデジタルカメラを持たせて、それで動画を撮ってそれを皆で見て、良い点・悪い点を見つけ合ったりしております。実際にはデジタル教科書が導入されていないだけで、小学校の体育の授業におきましても、必要な場面において、ICTの機器を使って授業を進めています。

◎市長

同じようなことをやっているということですね。そうするとタブレットを学校に1クラス分と無線LANがあればいいでしょうか。

●学校教育課長

学校にはパソコン室が基本的に設置されております。そこで通常児童生徒用の物が40台、指導者が1台が基本の環境になっています。

国の目指す環境整備においては、3クラスに1クラス分の整備をというラインが出ております。パソコン室を使用できる学級は1時間に1クラスしかありません。そのほかの通常クラスにおいても、タブレットを使って、授業ができるような環境を国は示しています。

稲沢市でどれくらい必要かという話ですが、学校規模が大規模なところでも

パソコン室1つしかありません。小さい学校は6学級しかなくて、同じ数のタブレットを配布しますと差が出てしまいますので、規模に応じて、台数は決めていくべきと考えます。そして現場がどのように有効活用できるか、グループ学習であれば、例えば1つのクラスで6～8台あればいいという場合もあります。個別学習の場合は40人が、一斉に活用すれば40台となります。そういったことを研究しながら必要なタブレットの数を決められるといいと考えておりますし、故障などもあるので、あればたくさんあった方がいいのですが、中々予算のことを考えると難しいとも思います。先ほどのビデオや動画をタブレットで撮りますと、その場で撮って大きい画面にすぐ動画で再生できるものだから、効果的であります。

◎市長

よく分かりました。今度予算措置をしっかりと考えていかなければと思います。

そのほかに意見はございますでしょうか。

○委員

宅急便のサインのように最近どこへ行ってもデジタル化されていると思います。携帯電話ショップへ行っても最後の契約は自筆で、デジタル画面に対して書きます。

今回導入しようというタブレットも例えば先生が1+1はと聞き、子ども達が2と書き送信を押すと全ての子供の回答を見ることができる。その中で3と書いた生徒がいれば、その子の個別の指導ができるというような仕組みなのではないでしょうか。この仕組みですと、書くことはできるのではないのでしょうか。先ほどから書くことも大事なことであったので、その辺をクリアされていればデジタル化されても問題ないのではないかと思います。

●学校教育課長

今おっしゃられたとおり、ソフトの関係で当然手書きでそのデータを先生に集約してもらうという設定のものを準備すれば、可能だと思います。

◎市長

可能だということと、ソフトを入れるかどうかはまた別になってしまいますが。

○委員

これをきちんとやろうと思うと、かなり予算が必要だと思います。予算ってあるようでないですよ。そうなりますと、学校の統廃合が関係してくるのではないかと思います。やはりきちんとした制度のものを作って、皆が利用でき

るシステムの学校にしなければいけないということが、前提にあるのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

◎市長

統廃合の問題は、中々色々なことが絡みますので、私からお答えさせていただきます。実は今年度全ての小学校にエアコンを導入いたします。これは国からの交付金をいただいて行った事業です。補助金適正化法を鑑みながら、8年後くらいに考え始めようと思っております。また今学校規模が非常に小さいところがあります。小さいところに同じように整備をすると、子ども1人あたりもちろん便利になるわけではありますが、費用対効果の点で今言われた無線LANの環境・タブレットの配置は、相当大きな金額になると思います。進められたとして、全校に一斉にやるのか、モデル校としてやるのかなど考えながら、順番に計画を立てて進めていきたいと考えておりますので、御理解いただければと思います。

○委員

情報推進課長さんに質問なのですが、教育クラウド研究というものが国の方でも進んでいるということで、私もそういうようなICT機器を使って効果的な活用法が、資料も含めて1か所に集中して、誰でもいつでもどこでも引き出せるようなというように捉えたのですが、その辺りを具体的に説明していただければと思います。

●情報推進課長

委員さんがおっしゃられました、教育クラウドについて情報推進課の立場で申し上げさせていただきますと、総務省から出ているもので、専門的な話になってしまうのですが、クラウド上、いわゆる仮想空間と御理解いただければと思いますが、そこにデジタル教材ですとか、全国の学校がそこにアクセスできるというものを作りたいと、そこに標準化されたものを今年度中に総務省の方で整備し、標準化して民間事業者の方に開放するというような話を聞いております。クラウドを使わせていただきまして、各学校からクラウドを通じて、全国の学校と繋がるということで、各児童生徒さんとの交流も可能になる、同じ教材を使うということで、非常に有効なものでございます。

これが文科省の新学習指導要領の方とリンクさせなければいけないというような話も聞いておりますが、総務省の見解としてはそのような形で動いているところでございます。

○委員

ありがとうございます。非常に大きな展望というか、ICTの良いところは

やっぱり共有化・共通化できるという点ですのでいつでも好きなときに引き出せるというようなこと、これが非常に大きな成果になっていくのかなと思います。とりあえずはですね、今与えられた稲沢市の状況で稲沢市にできること、活用できること、これだけの機器でやれることをやはり稲沢市全体で協議できるようなシステム、それを作ってこれ面白い、うちの学校でもやってみたいと思えるような情報整理をお願いできたらと思います。

もう一つは、やはりタブレット端末を導入するというところで話が進んでいると思いますが、私もタブレットは非常に有効で可能性のある物だと思います。スマホもタブレットと同じ機能を持っていますから、一番私が有効に使っているのはあるメーカーのですね、情報システムで音声をすぐに文字に変換してくれる、論文の添削指導をやっておりまして、誤字を見つけたとき、確認を今までは電子手帳でしたが、今はほとんど音声検索ですぐに出てくるので、すぐに添削できるということもタブレットで十分可能ですし、いろんなことが可能になるなとそういうものを皆さんの知恵を出し合って、ICTのCが入っているのではないかと思います。そういうことを計画に入れていただけたらありがたいなと思います。

◎市長

ありがとうございます。私もクラウド化というものは国がきちんとしたプラットフォームを作っていたらいいのですが、全てのことに例えれば税のシステムや生活保護のシステム、本当に各自治体がそれぞれの物を使ってまして、非常にたくさんものがあります。実際の金額チェックができず、私たちにとってはブラックボックスで中々金額がチェックできない、基幹システムにいろんなシステムが繋がっているわけですが、できたら国が統一してですね、作ってくれると本当にありがたい、言う機会があれば言いたいと思っています。

委員は何か御意見ございますか。

○委員

今の子ども達が大人になって更なる進歩を遂げて、良くも悪くもAIがかなり進化してると思われます、遅れをとることなく、ICTの環境が整備されるといいなと思っております。教育の分野においてICTが取り上げられる今だからこそ、子ども達が正しく活用できる情報モラルを合わせて、連携させることができるようにしていかなければいけないと強く感じました。

◎市長

今初めて情報モラルという話が出てきましたが、情報モラルという点につい

て、先ほどスマホ安全教室などもやっているという話がありましたけれども、今後ますますそういった機器が導入されて、スマホ等に子ども達が接する機会も多くなるなかで、何か新しい対策、対応というものは考えていらっしゃるでしょうか。

●学校教育課統括主幹兼指導主事

まず現状をお話しさせていただきたいと思います。小学生・中学生をとりまくSNS上のトラブルは、やはり稲沢市内におきましても増えております。中学校におきましては、生徒指導上の問題の大半が、SNS上のトラブルであるという現状です。例を申し上げます。昨年度もしくは今年度にあった事案でございます。SNS上で知らない男性と知り合った中学生女子が県外のその人がいるところに行くために、家出をした、該当の駅付近で幸いにも警察の方に保護していただいて、戻ってこれたという事案も発生しております。さらにはある中学校におきましては、LINEで繋がった人と会話をして、非常に親しくなり、同性なのか異性なのか分からないまま会話を続けていき、友達のことをいろいろ相談したり、自分の悩みをきいてもらっていた、そのうち友達の秘密をちょっとその人に話したところ、態度が豹変しまして、その友達の秘密を公にしてほしくなければ、あなたの下着の画像を送ってきなさいと、友達の秘密を言ってしまったことを伏せるために画像を送ってしまったという事案も起きております。情報モラルやマナーについてかなり注意をして、ICTというものに立ち向かっていかないとプラス面だけではないということです。

スマホ教室は、小中学校各校で毎年行われておりますけれども、これから先はさらにこういったICTの幅広い活用に向けてより多面的なことを考えて、子ども達を守るという観点だけではなくて、自分たちでルールを作って、それを活用していくという視点を持たないと、上手に活用できていかないと考えております。今後の大きな課題としていきたいと思います。

◎市長

ただいま本当に事件になりそうな例を具体的に挙げていただきましたが、そういったことが起こらないようにいろんな指導に努めていただかなければと思っております。

概ね予定をしておりました時間になりましたので、本当に申し訳ございませんが、最後に教育長から一言いただきまして議論を終了したいと思います。

○教育長

ありがとうございます。私自身が考えていることで実はICTの活用は、本来児童生徒全ての子どもがいろんな効果的で分かりやすい授業を受けるための

教育だということと、将来生きていく上でとても大切な機器の活用は絶対不可欠で必要であるということは、前提であります。先ほど統括主幹兼指導主事がお話ししました、スマホの利用の仕方と少し分けて考えていただかないといけないだろうと思います。その中でぜひICTについては、本当にこれが我々の時代より次の世代の子の方がもっと簡単に使いこなすと思いますし、活用すると思います。そういう中で少しでも時代に遅れないような形で条件整理、環境整備をまずしていくことが必要だと考えております。また、その反面、先ほどいろんな弊害として、身近にあるスマホを初めとしたパソコンというかインターネットを活用しての問題については、学校現場もさることながら、本当に指導していかないとこの命とそれから財産といろんな面で損失を受けてしまうということととても緊張感を持って、そして真剣にあり方については家庭と学校と本当はもう一つ地域も一緒にまとめて、考えていかなければいけない大変重要な課題だと思っております。

◎市長

ありがとうございました。ICTの機器を使うのにこれからの国際社会を生きるために稲沢市の子ども達が、他市町村に引けを取らないような最低限度の整備は進めていきたいと考えております。本当に今日は皆様から様々な御意見をいただき、ありがとうございました。皆様方の意見を参考にしながら、今後のICT化を進めていきたいと思っておりますので、また皆様方から忌憚のない御意見をいただきたいと思います。以上をもちまして、本日の総合教育会議を終わりたいと思っております。それでは事務局お願いします。

●庶務課長

市長ありがとうございました。連絡させていただくことは、ございませんので、次回の開催日時についてご案内いたします。

次回、特定な日はまだ決めておりませんが、第2回は、来年の2月に開催させていただく予定です。改めて担当から日程調整させていただきますのでよろしくお願いいたします。

これをもちまして、第1回稲沢市総合教育会議を閉じさせていただきます。本日は、ありがとうございました。

— 閉 会 —